



## 2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社マーベラス

コード番号 7844 URL <https://corp.marv.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 許田 周一

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 管理統括本部長 (氏名) 加藤 征一郎 TEL 03-5769-7447

四半期報告書提出予定日 2020年11月5日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家、アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第2四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	9,419	△13.1	1,699	34.4	1,678	34.5	1,160	56.0
2020年3月期第2四半期	10,836	△18.6	1,264	△54.3	1,247	△56.5	743	△61.7

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 1,155百万円 (62.6%) 2020年3月期第2四半期 710百万円 (△65.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	20.35	-
2020年3月期第2四半期	14.38	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	30,277	24,498	80.9	405.87
2020年3月期	26,238	20,099	76.6	388.48

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 24,498百万円 2020年3月期 20,099百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	-	0.00	-	33.00	33.00
2021年3月期	-	0.00	-	-	-
2021年3月期（予想）	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

2021年3月期の期末配当予想につきましては、現時点では未定とさせていただきます。

### 3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,000	△17.2	2,450	0.0	2,450	△2.1	1,800	0.1	30.67
	～23,400	～△7.7	～3,000	～22.5	～3,000	～19.9	～2,100	～16.8	～35.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、引き続き先行き不透明な環境が続くと予想され、収益が大きく左右される可能性があることから、特定の数値による予想が困難であるため、レンジ形式での開示を行っております。詳細は、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期2Q	62,216,400株	2020年3月期	53,593,100株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	1,856,367株	2020年3月期	1,856,367株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期2Q	57,014,381株	2020年3月期2Q	51,726,654株

（注）期末自己株式数については、「株式給付信託（BBT）」の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行（信託E口）が所有している483,900株を含めて記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

詳細につきましては、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(四半期連結貸借対照表関係)	8
(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)	9
(株主資本等関係)	9
(セグメント情報等)	11
(1株当たり情報)	12
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるエンターテインメント業界は、国内のモバイルゲーム市場におきましては、新型コロナウイルスによる影響は限定的で引き続き活況を呈しましたが、多くの新作タイトルがリリースされる一方、一部のヒットタイトルに人気が集まる傾向が続き、競争環境はさらに激しさを増しました。国内家庭用ゲーム市場におきましては、年末に発売されるPlayStation 5や新型Xboxの情報が公開され大きな話題となる中、ハード・ソフトともに前年の市場規模を上回り、引き続き好調に推移いたしました。アミューズメント市場におきましては、緊急事態宣言解除後、徐々に施設に客足が戻りつつあるものの、依然厳しい状況が続きました。音楽映像市場におきましては、パッケージ市場の縮小傾向が続く中、動画配信市場については配信サービスのグローバル化とともに、5Gの普及などの配信環境の変化により、今後拡大することが予想されています。ライブエンターテインメント市場におきましては、舞台公演が再開されつつも、政府によるイベント人数規制などにより、依然として非常に厳しい市場環境が続きました。

このような状況下、当社グループは、多彩なエンターテインメントコンテンツをあらゆる事業領域において様々なデバイス向けに展開する「マルチコンテンツ・マルチユース・マルチデバイス」戦略を基軸とした総合エンターテインメント企業として、強力なIPの確立に向けたブランディング戦略・アライアンス戦略・グローバル戦略を積極的に推進し、話題性の高いコンテンツの提供とサービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間（2020年4月1日～2020年9月30日）の経営成績は、売上高9,419百万円（前年同期比13.1%減）、営業利益1,699百万円（前年同期比34.4%増）、経常利益1,678百万円（前年同期比34.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,160百万円（前年同期比56.0%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### ①オンライン事業

当事業におきましては、『シノビマスター 閃乱カグラ NEW LINK』や『剣と魔法のログレス いにしへの女神』等の既存タイトルが引き続き堅調に推移いたしました。新作タイトルといたしましては、スマートフォン向けゲームアプリ『一騎当千エクストラバースト』を5月25日に、売り切りゲームアプリ『Fate/EXTELLA』、『Fate/EXTELLA LINK』を7月22日に配信を開始いたしました。その他、前期における不採算タイトルの整理等の効果もあり、利益が増加いたしました。

この結果、当事業の売上高は3,998百万円（前年同期比12.5%増）、セグメント利益は975百万円（前年同期比94.8%増）となりました。

#### ②コンシューマ事業

当事業のゲームソフト販売部門におきましては、国内における新作ゲームソフトの発売はありませんでしたが、海外におきまして『牧場物語 再会のミネラルタウン』北米・欧州版、Windows PC版を7月に発売し、好調なセールスを記録いたしました。さらに、利益率の高いリピート販売も好調に推移いたしました。しかしながら、アミューズメント部門におきましては、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、売上が減少いたしました。また、ポケモンアミューズメントマシンの最新作『ポケモンメザスタ』を9月17日より稼働開始し、前作『ポケモンガオーレ』の初動を上回る好調なスタートを記録いたしました。第2四半期への収益貢献は限定的となりました。

この結果、当事業の売上高は3,900百万円（前年同期比25.6%減）、セグメント利益は1,111百万円（前年同期比26.9%増）となりました。

#### ③音楽映像事業

当事業の音楽映像制作部門におきましては、当社主幹事TVアニメ作品『やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。完』を7月より放送開始し、一部パッケージ商品化も行い好調なスタートとなりました。また、『ヒーリングっど♥プリキュア』、『スター☆トゥインクルプリキュア感謝祭』のパッケージ商品化を行いました。ステージ制作部門におきましては、新型コロナウイルスの影響により予定していた公演を中止しておりましたが、政府・地方自治体の方針や、公益社団法人全国公立文化施設協会、緊急事態舞台芸術ネットワークのガイドライン等に従った上で、7月～8月に舞台『刀剣乱舞』を科白劇という新形態での演劇として、そして「ミュージカル『憂国のモリアーティ』Op.2 -大英帝国の醜聞-」の公演を実施いたしました。

この結果、当事業の売上高は1,521百万円（前年同期比26.1%減）、セグメント利益は361百万円（前年同期比41.4%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態の分析

当社グループの当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、資産30,277百万円（前連結会計年度末比4,039百万円増）、負債5,778百万円（前連結会計年度末比360百万円減）、純資産24,498百万円（前連結会計年度末比4,399百万円増）となりました。

（流動資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、現金及び預金、たな卸資産の増加等により21,122百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,589百万円増加いたしました。

（固定資産）

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は、有形固定資産、無形固定資産の増加等により9,154百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,449百万円増加いたしました。

（流動負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、未払金、未払印税の減少等により5,595百万円となり、前連結会計年度末に比べ427百万円減少いたしました。

（固定負債）

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は、資産除去債務の増加等により183百万円となり、前連結会計年度末に比べ67百万円増加いたしました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度の配当による利益剰余金の減少があったものの、第三者割当増資の払込に伴い資本金2,483百万円、資本剰余金2,483百万円を計上したこと、及び親会社株主に帰属する四半期純利益1,160百万円を計上したことにより24,498百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,399百万円増加いたしました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ2,429百万円増加し、13,599百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、たな卸資産の増加1,086百万円、未払金の減少954百万円、未払印税の減少329百万円等による減少があったものの、税金等調整前四半期純利益1,664百万円、減価償却費302百万円等による増加により、768百万円（前年同期比412百万円減）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、有形固定資産の取得による支出927百万円、無形固定資産の取得による支出559百万円により、1,487百万円（前年同期比1,266百万円増）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、配当金の支払額1,723百万円があったものの、株式の発行による収入4,967百万円により3,203百万円（前年同期比4,929百万円増）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、従業員およびその家族の健康に配慮し、不要不急の出張・会食の禁止、大人数での会議の自粛やテレビ会議の活用などの対応をとってまいりました。さらに、4月上旬以降は、日本国内での感染拡大を鑑み、全社レベルでの在宅勤務を強く推進することとし、感染リスクの低減に取り組んでまいりました。緊急事態宣言解除後も、分散出勤等業務への影響を最小限に抑えつつ感染防止に努めながら効率的な勤務体制を取っております。また、在外子会社におきましても、各国の国策に基づく外出制限等により事業活動の制限を受けておりますが、影響を最小限に抑えるよう日々努めております。

事業別の影響といたしましては、オンライン、コンシューマゲームにおきましては、新型コロナウイルスの影響は今後も限定的と考えておりますが、アミューズメント、音楽映像、ライブエンターテインメントの各事業が引き続き

き影響を受けております。アミューズメント事業におきましては、緊急事態宣言解除後、徐々に施設に客足が戻るなど回復の兆しが見えており、9月に稼動開始した『ポケモンメザスタ』も好調な立ち上がりとなっておりますが、今後の感染状況次第では、再び影響が拡大する可能性があります。音楽映像事業におきましては、劇場版アニメの公開延期や関連商品の発売延期、ライブの中止等、通期業績への影響が発生しております。ライブエンターテインメント事業におきましては、大規模イベントの自粛要請やお客様、キャスト、スタッフへの感染懸念によりイベント、舞台公演を中止しておりましたが、7月より政府・地方自治体の方針や、公益社団法人全国公立文化施設協会、緊急事態舞台芸術ネットワークのガイドライン等に従いながら、一部公演を再開いたしました。9月にはイベントの収容人数制限が緩和され、今後は感染防止対策を講じた上で徐々にキャパシティを増やして開催していく予定ですが、関係者の感染発覚や今後の感染状況次第では、公演が中止または縮小する場合があります、業績に影響を与える可能性があります。

2021年3月期の通期業績見通しにつきましては、新型コロナウイルスによる影響を合理的に算定することが困難と判断し未定としておりましたが、第2四半期連結累計期間の進捗状況や各事業への影響等、現時点において入手可能な情報をもとに算定いたしました。しかしながら、引き続き新型コロナウイルスにより、先行き不透明な環境が続くと予想され、収益が大きく左右される可能性があることから、特定の数値による予想が困難であるため、レンジ形式での開示とさせていただきます。今後、特定予想値の開示が可能となった時点で、速やかに開示いたします。

なお、2021年3月期の期末配当予想につきましては、今後、業績予想の特定値の開示が可能となった段階で、あわせて開示させていただきます。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,169	13,599
受取手形及び売掛金	3,684	2,803
電子記録債権	115	18
たな卸資産	※ 1,475	※ 2,513
その他	2,102	2,190
貸倒引当金	△14	△3
流動資産合計	18,533	21,122
固定資産		
有形固定資産	301	1,512
無形固定資産	752	1,127
投資その他の資産		
投資有価証券	4,696	4,583
その他	1,970	1,946
貸倒引当金	△15	△15
投資その他の資産合計	6,652	6,515
固定資産合計	7,705	9,154
資産合計	26,238	30,277
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	992	903
短期借入金	200	160
未払金	2,253	1,700
未払印税	1,510	1,169
未払法人税等	44	552
引当金	334	200
その他	687	909
流動負債合計	6,023	5,595
固定負債		
役員株式給付引当金	67	67
資産除去債務	48	115
その他	—	0
固定負債合計	115	183
負債合計	6,139	5,778
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,128	3,611
資本剰余金	6,260	8,744
利益剰余金	14,720	14,157
自己株式	△1,923	△1,923
株主資本合計	20,186	24,590
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△45	△11
為替換算調整勘定	△42	△80
その他の包括利益累計額合計	△87	△92
非支配株主持分	0	0
純資産合計	20,099	24,498
負債純資産合計	26,238	30,277

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	10,836	9,419
売上原価	5,609	3,812
売上総利益	5,227	5,607
販売費及び一般管理費	※1 3,962	※1 3,907
営業利益	1,264	1,699
営業外収益		
受取利息	40	31
貸倒引当金戻入額	1	1
その他	11	8
営業外収益合計	54	41
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	69	60
その他	1	0
営業外費用合計	70	61
経常利益	1,247	1,678
特別損失		
固定資産売却損	0	—
特別退職金	※2 24	—
公演中止損失等	—	※3 14
特別損失合計	25	14
税金等調整前四半期純利益	1,222	1,664
法人税等	478	503
四半期純利益	743	1,160
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	743	1,160
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14	33
為替換算調整勘定	△47	△37
その他の包括利益合計	△33	△4
四半期包括利益	710	1,155
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	710	1,155
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0



(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,222	1,664
減価償却費	419	302
映像コンテンツ償却額	96	45
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1	△10
受取利息	△40	△31
支払利息	0	0
売上債権の増減額 (△は増加)	905	964
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△313	△1,086
仕入債務の増減額 (△は減少)	6	△88
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△158	△134
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△33	0
役員株式給付引当金の増減額 (△は減少)	3	—
固定資産売却損益 (△は益)	0	—
特別退職金	24	—
公演中止損失等	—	14
未払金の増減額 (△は減少)	△315	△954
未払印税の増減額 (△は減少)	32	△329
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△131	△174
その他	146	△79
小計	1,863	103
利息及び配当金の受取額	42	37
利息の支払額	△0	△0
特別退職金の支払額	△29	—
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△694	628
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,180	768
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△142	△927
無形固定資産の取得による支出	△587	△559
有形固定資産の売却による収入	7	—
投資有価証券の取得による支出	△1,000	—
定期預金の預入による支出	△132	—
定期預金の払戻による収入	1,638	—
敷金及び保証金の差入による支出	△5	—
その他	1	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△221	△1,487
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△40
配当金の支払額	△1,723	△1,723
株式の発行による収入	—	4,967
その他	△2	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,725	3,203
現金及び現金同等物に係る換算差額	△19	△54
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△786	2,429
現金及び現金同等物の期首残高	12,217	11,169
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 11,431	※ 13,599

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年5月25日開催の取締役会決議に基づき、2020年6月11日付で、Image Frame Investment (HK) Limitedから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金が2,483百万円、資本剰余金が2,483百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が3,611百万円、資本剰余金が8,744百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(取締役に対する株式報酬制度)

当社は、中長期的な業績向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的とし、株式報酬制度「株式給付信託(BBT(=Board Benefit Trust))」を導入しております。当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 2015年3月26日)に準じて、総額法を適用しております。

## (1) 取引の概要

当社は、取締役に役員及び業績達成度等により定まるポイントを付与し、一定の条件により受給権を取得したときに当該付与ポイントに相当する当社株式等を給付します。

取締役が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として退任時となります。

取締役に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分割管理するものとします。

## (2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付帯する費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度414百万円、483,900株、当第2四半期連結会計期間414百万円、483,900株であります。

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

当社グループは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が少なくとも一定期間続くとの仮定のもと会計上の見積りを会計処理に反映しております。なお、当該会計上の見積りの仮定については前連結会計年度から重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
商品及び製品	176百万円	311百万円
仕掛品	1,196	2,063
原材料及び貯蔵品	102	72
映像コンテンツ	—	66

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
広告宣伝費	724百万円	556百万円
支払手数料	1,011	1,202
従業員給料及び手当	554	593
賞与引当金繰入額	48	81
役員株式給付引当金繰入額	21	—

※2 特別退職金

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)  
国内子会社において特別退職を実施したことによるものであります。

※3 公演中止損失等

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)  
新型コロナウイルスの影響を受け、舞台公演等を中止したことによるものであります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定	11,561百万円	13,599百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△129	—
現金及び現金同等物	11,431	13,599

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

配当金支払額

2019年5月13日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	1,723百万円
② 1株当たり配当額	33円00銭
③ 基準日	2019年3月31日
④ 効力発生日	2019年6月3日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」が保有する当社株式(2019年3月31日基準日:500,000株)に対する配当金16百万円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

1. 配当金支払額

2020年5月12日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	1,723百万円
② 1株当たり配当額	33円00銭
③ 基準日	2020年3月31日
④ 効力発生日	2020年6月9日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」が保有する当社株式(2020年3月31日基準日:483,900株)に対する配当金15百万円が含まれております。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2020年5月25日開催の取締役会決議に基づき、2020年6月11日付で、Image Frame Investment(HK) Limitedから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金が

2,483百万円、資本剰余金が2,483百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が3,611百万円、資本剰余金が8,744百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注) 2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,536	5,241	2,059	10,836	—	10,836
セグメント間の内部売 上高又は振替高	17	—	0	17	△17	—
計	3,553	5,241	2,059	10,854	△17	10,836
セグメント利益	500	875	616	1,993	△728	1,264

(注) 1 セグメント利益の調整額△728百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注) 2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,997	3,900	1,521	9,419	—	9,419
セグメント間の内部売 上高又は振替高	0	—	—	0	△0	—
計	3,998	3,900	1,521	9,420	△0	9,419
セグメント利益	975	1,111	361	2,447	△748	1,699

(注) 1 セグメント利益の調整額△748百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益	14円38銭	20円35銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	743	1,160
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	743	1,160
普通株式の期中平均株式数(株)	51,726,654	57,014,381

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
- 2 「株式給付信託(BBT)」制度に関する株式会社日本カストディ銀行(信託Eロ)が所有する自社の株式は、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式を含めております。1株当たり四半期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前第2四半期連結累計期間494,017株、当第2四半期連結累計期間483,900株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。